

認知言語学： 言語相対性仮説 4



サンフランシスコ州立大学／国立国語研究所
南 雅彦

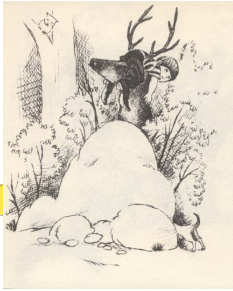
能動態・受動態

- Niyekawa-Howard(1968): 日本語の文法と「物事が起こる原因に対する日本人の認識」を研究
- 間接受動表現(例: 雨に降られる／ペットの犬に死なれる)
 - 主語の人物はその行為や生じた結果に責任を負いはしない。
 - この情報は英語でも伝えられはするが、厄介で余分な単語や句を使用しなければならない。
 - × I was fallen by rain. => ○ I got rained on.
 - × I was died by my pet dog. => ○ My pet dog died on me.

能動態・受動態

- Niyekawa-Howard(1968): 日本語の文法と「物事が起こる原因に対する日本人の認識」を研究
 - 日本語の受動態では、この意味(上記の例では「雨に降られて／ペットの犬に死なれて困った・悲しかった」という意味)は微妙に伝えられる。
 - 日本語話者がこの受動態に直面する頻度のため、日本語話者はたとえ結果が肯定的なものであろうがなかろうが、英語話者以上に責任を他者に転嫁するのだ、と考えた。
- これはステレオタイプ的な解釈ではないのか？

能動



受動



■ 日英両語で異なる特徴(言語固有性)

■ 受動態

■ アスカ [女兒 11歳1ヶ月] (場面15-17)

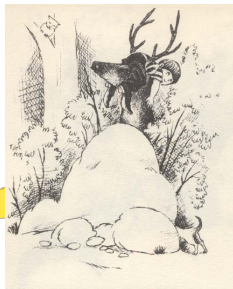
■ 英語:

And then they met a deer, and then the deer carried them, and dumped them into the creek.

■ 日本語:

■ で、(ø)とちゅうでシカにあって、(ø)シカのつのはさまれて、(ø) いけにほおりこまれて。

能動 受動



■ 日英両語で異なる特徴(言語固有性)

■ 受動態

■ アスカ「女児 11歳1ヶ月」(場面15-17)

■ 英語:

the boy & the dog

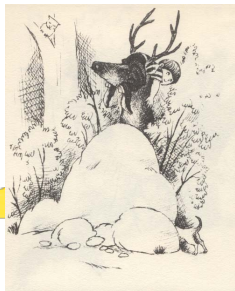
And then they met a deer, and then the deer carried them, and dumped them into the creek.

the boy & the dog

the boy & the dog

■ で、(ø)とちゅうでシカにあって、(ø)シカのつのはさまれて、(ø)いけにほおりこまれて。

能動



受動



■ 日英両語で異なる特徴(言語固有性)

■ 受動態

■ アスカ [女兒 11歳1ヶ月] (場面15-17)

■ 英語:

And then they met a deer, and then the deer carried them, and dumped them into the creek.

男の子とイヌ

口々

男の子とイヌ

で、(ø)とちゅうでシカにあって、(ø)シカのつのはさまれ
て、(ø) いけにほおりこまれて。

男の子とイヌ

音形のない
ゼロ代名詞

能動態・受動態



- メキシコの町を父親と共に訪問した際のことを、成人日本語学習者が綴った作文（祖母の必死の制止にも耳を貸さず従姉妹と共に危険な橋を渡って教会を見に行った作者が帰宅した時、父親に叱責される）
- 「家に帰った後、父に全部を伝えて、ひどく怒りました」

能動態・受動態

- メキシコの町を父親と共に訪問した際のことを、成人日本
音形のない ゼロ代名詞 か 音形のない ゼロ代名詞 音形のない ゼロ代名詞 止にも耳を貸さ
音形のない ゼロ代名詞 と 音形のない ゼロ代名詞 音形のない ゼロ代名詞 見に行った作者
が帰宅した時、父に叱責される

- 「家に帰った後、父に全部を伝えて、ひどく怒りました」
 - 「ひどく怒った」主体が誰なのか判然としない。
 - これは、受動態を使用することで省略されている主語・音形のないゼロ代名詞(ここでは作者)を統一し「家に帰った後、父に全部を伝えて、ひどく叱られました(受動態)」とするか、主語を補足して「家に帰った後、父に全部を伝えたら、父はひどく怒りました」としなければ、主体が明確とはならない。

能動態・受動態

- 「**彼**は八番打者をピッチャーゴロにうちとってやっと一死にしたが、つづく九番のピッチャーにレフト線の二塁打を**打たれて**、さらに一点を**失った**」
(海老沢泰久『スーパースター』収録作品「眼下のゲーム」)
- “**He** finally got the first out when the eighth batter grounded out to the mound. Then **the ninth man, their pitcher, hit** a line drive double into left field, and we were down by another run.”
- 日本語の原文では二番目の文章で受動態を使用することで**視点**を一定に保っているが、英語でそれに対応する文では**受動態**の使用がなく、結果として**視点**の移動が見られる。

言語と文化



■ Kashima & Kashima (1998)

- 日本語やその他のアジアの言語のように代名詞を省略することが許容されている言語を持つ文化では、個人主義の程度が低くなる傾向。

■ 言語相対性仮説: サピア・ウォーフ仮説

- 異なる言語を話す者は、その言語の相違ゆえに、異なったように思考する。
- 概して、異なる文化は異なる言語を所有しているので言語機能としての思考と行動における文化間の相違と類似性を理解する上で、サピア・ウォーフ仮説は重要。